

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	金城 里奈	学年(渡航時)	4年
派遣先大学	ゲオルク・ジモン・オーム大学ニュルンベルク		
国・地域	ドイツ		
派遣期間	2024年9月～2025年1月		

履修科目

1学期目	
履修科目	授業内容
Marketing	マーケティングの基礎知識を学ぶ。
German A1, Living in Germany- Easy Conversation for Beginners	ドイツ語の日常会話や基礎単語・文法を学ぶ。
German A1/A2, welcome	ドイツ語の文法を徹底的に学ぶ。

注意！ 語学だけの履修、または語学が主となる履修登録は不可。

留学レポート(1,500字以上)

私はゲオルク・ジモン・オーム大学ニュルンベルクの交換留学生として、ドイツで約半年間の留学を経験しました。本留学の目的は、ドイツにおける環境管理や環境経営の視点を学ぶことに加え、異文化理解を深めることでした。ドイツは環境政策の先進国であり、またヨーロッパの経済の中心の一つとしても知られています。そのため、学問的な視点からだけでなく、日常生活を通じて多くのことを学べると考え、留学を決意しました。

留学中に受講した授業において、まず Marketing の授業では、ドイツの企業がどのように市場戦略を立て、国際的な競争力を維持しているのかを学びました。特に、持続可能な経営戦略やグローバル市場におけるドイツ企業のブランディング戦略が印象に残っています。ドイツ語の授業では、日常生活に必要な基本的なドイツ語表現を学びました。特に「German A1, Living in Germany - Easy Conversation for Beginners」では、実際に街中で使えるフレーズや文化的な習慣について学ぶ機会が多く、現地での生活にとっても役立ちました。

異文化交流においては、ドイツでの生活を通じて、様々な国の学生と交流する機会がありました。特に、大学のイベントや交流会に参加することで、多様な文化背景を持つ人々と意見を交わし、お互いの価値観を理解することができました。大学の International Office が国際イベントを多数企画してくださり、私は日本チームの一員として、日本や長崎大学についてプレゼンテーションをしたり、日本料理を提供したりして、他国の留学生との交流を積極的に図りました。

また、ドイツ国内やヨーロッパを一人旅をすることで、多くの新しい視点を獲得することができました。例えば、ベルリンやミュンヘンを訪れた際には、ドイツの歴史や社会についてより深く学ぶ機会となりました。一人で行動することで、自分自身の判断力や適応力も向上したと感じています。特に、困ったことが起きた時に恐れずに英語を使って質問する力が身につき、英語力も度胸も以前より身についたと感じました。

ドイツでの生活を通じて、日本とは異なる点が多くありました。その中でも特に印象的だったのは、環境に対する意識の高さです。例えば、ごみの分別が非常に細かく、リサイクルが徹底されていることに驚きました。飲料のペットボトルや缶にはデポジット制度があり、返却するとお金が戻ってくるシステムが整備されていました。このシステムによって市民の環境に対する意識が無意識のうちに培われていくのではないかと思います。

さらに、公共交通機関の発達や、現金よりもカード決済が主流である点など、日本とは異なる生活習慣に適應する必要がありました。これらの経験を通じて、日本とドイツの社会システムの違いについて考えるよい機会となりました。

ました。

本留学を通じて、私は学問的な知識だけでなく、異文化適応能力やコミュニケーション能力を大きく向上させることができました。特に、異なるバックグラウンドを持つ人々と協力しながら学ぶことで、多角的な視点を持つことの重要性を実感しました。異なる文化的背景を持つ学生とディスカッションを行い、時には意見の相違に直面することもありましたが、それぞれの立場や価値観を尊重しながら議論を深めることで、より柔軟な思考力を養うことができました。

また、言語の壁を乗り越えながら学び、生活することで、自信を持って異文化環境に適応する力が身についたと感じています。最初はドイツ語でのコミュニケーションに不安を感じることもありましたが、授業や日常会話を通じて少しずつ上達し、最終的には基本的なやり取りができるようになりました。さらに、英語を使っの授業や議論も多く、英語でのプレゼンテーションのスキルも向上しました。

この貴重な経験を通して、今後は、本留学で得た知識や経験を生かし、日本における環境管理の課題に取り組みたいと考えています。特に、日本企業の脱炭素化に向けた取り組みについて、ドイツの成功事例と比較しながら、より効果的な対策を模索したいと考えています。

本留学を通じて得た経験は、私の今後のキャリアや人生において大きな財産となると確信しています。貴重な機会を与えてくださった大学や関係者の皆様に感謝申し上げます。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



留学帰国前に国旗に寄せ書きしてもらった時の写真



国際イベントでヴュルツブルクに行った時の様子



中国料理をみんなで作って食べた時の様子



クリスマスパーティーをした時の様子



留学生とバディでワインハイキングをした時の様子